



子どもたちもよく知っている
職業を描いた絵本です。



『おとうさんはしょうぼうし』

作／平田昌広 絵／鈴木まもる
1,300円 (佼成出版社)

ぼくのお父さんは消防士。日曜日にも仕事の日があるから、ちょっと寂しいときも。けれど、日々体を鍛え、訓練をして、すばやく火事の現場に駆けつけるお父さんは、やっぱりカッコいい！



『おさかないちば』

作／加藤休ミ 1,550円 (講談社)

お父さんがお寿司屋で食べたタイラ貝って、どんな貝？ 気になったぼくは大将に魚市場へ連れていってもらいました。市場にはキンメダイや大きなマグロなど、たくさんの魚が並んでいました。



『いちばんでんしゃのうんてんし』

文／たけむらせんじ 絵／おおともやすお
1,300円 (福音館書店)

乗務員用寢室で眠っていた中村さんは午前3時に自動起床装置で起こされます。制服に着替えて事務室へ。ホームに止まっている電車の乗務員室に入りました。4時39分、下り一番電車の出発です。

『はしれ！ みんなのSL』

絵／溝口イタル
1,300円 (交通新聞社)

埼玉県の秩父鉄道では例年、3～12月の土日や祝日にSLが1日1往復しています。熊谷の駅のホームには白い煙を吐くSLが。迫力に圧倒されます。パノラマページでその仕組みがわかります。

新刊



『どうぶつげんきにじゅういさん』

作／山本省三 絵／はせがわかこ
1,500円 (講談社)

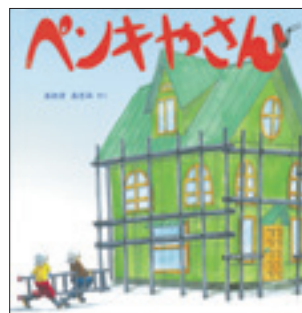
動物病院のみず先生のところには、毎日いろいろなペットや小動物が連れてこられて大忙しです。言葉が話せない生きものたちの病気の原因をさぐり、的確な治療をするのは大変な仕事です。



『みんなで！ どうろこうじ』

作／竹下文子 絵／鈴木まもる
1,000円 (偕成社)

道路工事を、パン屋さんの前から定点観測。マカダムローラーなど工事車両の役割や工事の様子がわかりやすく描かれています。通りを行く人たちの一日も同時に楽しめます。



『ペンキ屋さん』

作／あおきあさみ
品切れ中 (福音館書店)

あっちゃん散歩から帰つてくると、家が鉄骨に囲まれています。これから家の壁のペンキ塗りが始まります。高いところに登ったり、ペンキを混ぜたり、ペンキ屋さんの仕事は楽しそう。

著作権保護コンテンツ

和田誠さんの 手がけた絵本

たくさんある絵本の中から、
編集部厳選の11作品を
ご紹介します。



『いちねんせい』

詩／谷川俊太郎
1,000円 (小学館)

「あ」や「せんせい」、「なまえ」、「あたらしいこ」など、谷川俊太郎さんが1年生の子どもたちに向けて書いた詩が23編。なかには「あいしてる」なんて深く考えさせられるものも。



『あいうえ どうぶつえん』

詩／小林純一
1,200円 (童心社)

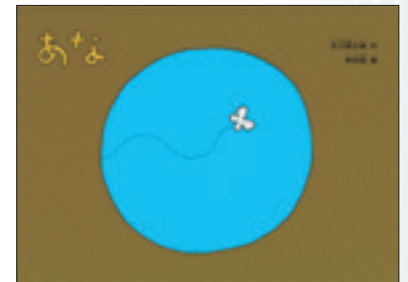
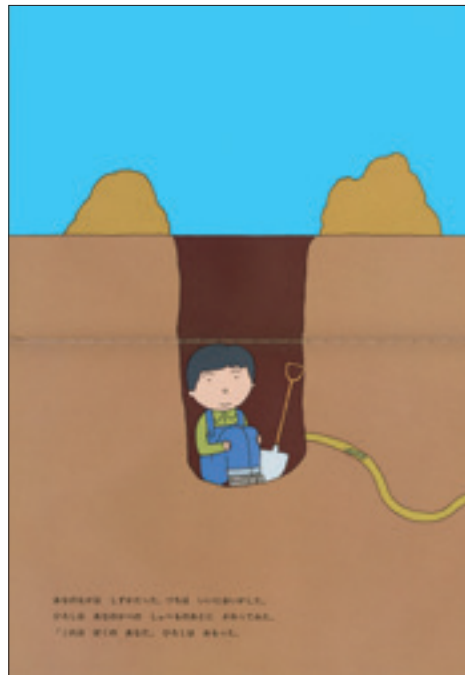
「あひるのあかちゃん いけまでいって うわぎをぬぐやら エプロンとって」と、あいうえおの詩がワ行まで。カニ、サル、タヌキやナマズなど、ゆかいな動物たちが続々登場します。



『これは のみの ぴこ』

作／谷川俊太郎
1,800円 (サンリード)

「これはのみのぴこ」「これはのみのぴこの すんでいるねこの ごえもん」と、どんどん続していきます。ノミからネコ、どろぼうに歯医者さんと、おはなが積み上がっていく、言葉遊びです。



『あな』

作／谷川俊太郎
900円 (福音館書店)

ひろしは穴を掘り始めました。お母さんと妹たちが話しかけてきますが、ひろしは穴を掘り続けます。深く掘れたので、穴に入って座ってみました。穴から見上げる空はいつもと違っていました。



『ともだち』

文／谷川俊太郎 1,200円

英語版『A FRIEND』

訳／アーサー・ピナード
1,700円 (ともに玉川大学出版部)

「ともだちって かぜがうつっても へいきだって いってくるひと」。友だちって、どんなこと？ と詩を通して伝えます。会ったことがない友だちにも思いを馳せてみましょう。



『かようびのよる』

作・絵／デヴィッド・ウィーズナー
訳／当麻ゆか 1,400円（徳間書店）

アメリカのとある町で、深夜にカエルの大群が空を飛んでいたという目撃情報が相次ぎました。ファンタジーかと思ったら、本当にあった話かというのです！ 次の火曜日の夜も、もしかして？



『あかいふうせん』

作／イエラ・マリ
1,000円（ほるぷ出版）

赤い風船をふくらませ、空へ飛ばしました。風船はそのまま飛んで、木に実るリンゴになりました。やがてリンゴは落ち、チョウから傘へと姿を変えます。白地にシンプルな線と赤が映えます。

ストーリー仕立て

絵を見ていくことで、ストーリーが語りかけてくるようです。

『雨、あめ』

作／ピーター・スピアー
1,400円（評論社）

子どもたちが庭で遊んでいたら、雨が降ってきたので雨具を着て、また外へ。水たまりで飛び跳ねたり、雨粒が光るクモの巣を眺めたり、思う存分遊んでびしょぬれになりました。明日は天気かな？



『うたがみえる きこえるよ』

※最初だけ文字あり

作／エリック＝カール
1,400円（偕成社）

モノトーンで描かれたバイオリニストがバイオリンを弾き始めると、音が色になって現れました。音の色は、草木や生きもの、人の涙などにどんどん形を変え、物語を表現しました。



『おはなをあげる』

作／ジョナルノ・ローソン
絵／シドニー・スミス
1,400円（ポプラ社）

お父さんと一緒にの帰り道、女の子は花を見つけます。花を摘んで歩きながら、小鳥やイヌに、花をプレゼントしていきます。モノクロの中にほんの少し使われた色が印象的です。



『かさ』

作・絵／太田大八
1,100円（文研出版）

赤い傘をさした女の子が、雨の中を歩いています。公園や池を通りすぎ、たどりついたのは駅でした。お父さんに傘を持って迎えに来たのです。墨一色の中、赤い傘が目を引きま

『おれ、よびだしになる』

文／中川ひろたか
絵／石川えりこ
1,400円(アリス館)



ぼくは、相撲が好き。でも呼出さんのほうがもっと好き。大相撲の呼出に憧れて、中学校を卒業したら、相撲部屋に入りました。一人前の呼出をめざして、いろいろなことを学びます。

『ババトラ』

文／平田昌広
絵／きむらゆういち
1,400円(アリス館)



ババトラは、掟に従って、ママトラとコトラとは離れて暮らしています。でも離れていても、いつも2匹を見守っています。ある日、若いオストラがコトラを襲うと、ババトラは、飛び出してきました。

『ポコンベンベン ばけがっせん』

作／ザ・キャビンカンパニー
1,500円(アリス館)



「ポコンベンベン」。キツネとタヌキがつくりだす怖い顔、へんてこな顔、かわいい顔。ページが分かれている仕掛けをパタパタ組み合わせると、全部で686通りのばけ名人のできあがり！ 審判はあなたです。

『えんまだいおう ごいっこう』

文／中尾昌稔
絵／広瀬克也
1,400円(イースト・プレス)



えんま大王は待ちに待ったお休みに、家来たちと一緒に旅行に出かけました。地獄を抜け出し、三途の川を渡ってめざしたのは楽しい温泉。正体を隠して人間世界のお風呂やごちそうを満喫します。

『はるの うた』

作／もちなおみ
1,600円(イメージ・プラス)



シマリスのチョコは、秋のある日、雪ウサギのネネと出会います。ふたりはすぐに友だちになって楽しく過ごしました。やがて冬の足音が。「春になったらまた会おうね」と約束して、チョコは冬ごもりに入りました。

新刊

100!!

もう
読んだ？

2019年12月～20年2月発売の新刊絵本の中から、読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。

※出版社五十音順

📖 マークは乳幼児から、🎵 は中・高校生も楽しめる本です。

定期購読者限定プレゼント🎁

新刊絵本プレゼントの詳細は、このページの下欄をご覧ください。

『しまふくろうの森』

写真・文／前川貴行
1,500円(あかね書房)



北海道に生息するシマフクロウは、世界で最も大きいフクロウです。都市開発が行われ、理想的な生きる場を奪われた彼らは絶滅の危機に陥っています。ヒナの巣立ち、つがいの様子、狩りの姿などをカメラはとらえます。

『りんご だんだん』

写真・文／小川忠博
1,300円(あすなろ書房)



食器棚にリンゴをしまっておいたら、どう変化していくかを観察してみました。つるつるのリンゴは、だんだんしわしわになり、水分が抜けてしなしなになり、ごつごつしてきました。346日目にはどうなったでしょう？

『お蚕さんから 糸と綿と』

著／大西暢夫
1,500円(アリス館)



お蚕さんが作る繭。その繭から、生糸と真綿が作られるまでがわかります。多くの人の手を通して、命あるものから生まれる、生糸と真綿。お蚕さんを、「一頭」と数えるのは、大切な存在だったからだ、教えてくれます。

今、さまざまな
現場で
SDGsが熱い!

著作権保護コンテンツ

連載第2回

子どもたちの未来と SDGs絵本

SDGs (エス・ディー・ジーズ、Sustainable Development Goals の略) とは、“全世界の人たち” が、“持続的” に“人間らしく生きる” ために、国連が2030年の達成に向けて定めた、世界を変えるための17の目標の事です。この目標を、子どもたちや、それを取り巻く大人たちと共有するために、絵本を使った活動が広がっています。この連載では、その具体的な取り組みや関連する本を紹介します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



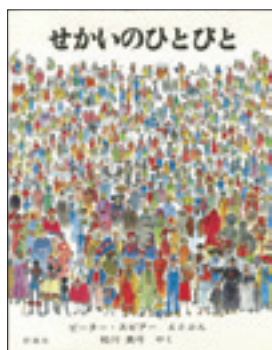
『かぞくって なあに?』

文／フェリシティ・ブルックス
訳／石津ちひろ
絵／マール・フェレーロ
1,600円 (文化出版局)

いちばん身近な存在の「かぞく」。でも、ひとり親や、親類家族、里親など、その形は実にさまざま。言葉や食べるもの、習慣だって違います。いろんな家族の形を見てみましょう。



人々の
多様性を
考える
きっかけに



『せかいのひとびと』

絵・文／ピーター・スピアー
訳／松川真弓
1,500円 (評論社)

世界にはたくさんの人々が暮らしています。国籍も人種も言葉もたくさんあります。自分と違うものをいやがる人もいますが、それぞれが違うからこそ、この世界はすてきなのです。



『みんなとちがうきみだけど』

作／ジャクリン・ウッドソン
絵／ラファエル・ロペス
訳／都甲幸治 1,600円 (汐文社)

教室に入ったら、まわりのみんなとは少し違うところがありました。それは、話す言葉であったり、お弁当の中身だったり。でも、自分のことをみんなに話してみたら、つながりもわかっていきました。

絵本から想像をふくらませて、地球のこと、未来のこと、考えてみませんか。編集部から、そんなきっかけになりそうな絵本をご紹介します。

絵本を通して
問題に気づくために

連載

第45回

おはなしお婆さんの

おはなしの たねあかし

おならをがまんしておなかにためていた嫁様に、
やさしい姑様は「遠慮しないで、ほれたれろ、ほれこけ」
と言ってくれましたが……。

イラスト／保坂あけみ



藤田 浩子

1937年東京生まれ。福島県三春町に疎開し、昔ばなしを聞いて育つ。幼児教育に携わりながらおはなしを語って50年。現在は西小岩幼稚園をはじめ、小学校や大学などでも小道具を使った楽しいおはなしを語り、大人向けの講演会のため全国を飛び回る毎日。

『百べでこりた』

むがあし まずあつたと。

あるとこに爺様と婆様と二人の背兄様(青年)いてな。その背兄のところに 隣村からまずめんこい嫁がきたんだと。

その嫁様というのは まあ

姿形は美しいし よく稼ぐし お父様

おつか様にもよく仕えるし

まずいい嫁こであつたもんで

姑おつか様もすっかり気に入って

嫁こ 嫁こと めこがついていたんだけどなあ

よく稼いだのは三日四日であつて

五日たち六日たつうちに 顔

青おくなつてきてな ちよこつと稼いでは

柱の陰に行つてしやがみこむし

またちよこつと稼いでは

かまどの前にへたり込んでる。ほおで

姑おつか様 これは

どこぞあんべえ悪いんでねえかと思つて

嫁にゆつたんだと。

「嫁 嫁

おめえどこぞあんべえ悪いんでねえがン？」

したれば その嫁こが

「何でもござりやせん」

と こう言う。ほおでまあ その日は

そのままにしたんだけど また二日たち三日たち

顔はだんだんだんだん青くなつてくるし

嫁は はあ 脂汗たらしながら

何やら苦しうにしている。ほおで姑おつか様も

これは捨てておけねえ

と なつてなあ

いやあ これもしかしたら

女子の病であつたかもしれねえ。

男衆がいたでは語りにくいのかもしれねえ

と思つて その日は爺様と息子を山仕事さ

ぶくり出してやつてな ほおで 囲炉裏の前に

嫁を座らせて ほおで語つたんだと。

「嫁 嫁 おめえとおれとはなあ

縁あつてこうして親子になつた

おらは今は達者でいるけども

プログラム (各10~15分) 小学校低学年

7月 テーマ: ぎらり! あついですね

①『トマトさん』

作/田中清代
900円(福音館書店)

太陽がキラリと暑い季節です。トマトさんと一緒に涼しい気分を味わって。



②『もじもじ こぶくん』

文/小野寺悦子 絵/きくちき
900円(福音館書店)

暑いときは、ひんやりアイスクリーム。もじもじさんが頑張るおはなしで、気分もすっきり。



③『アリからみると』

文/桑原隆一 写真/栗林 慧
900円(福音館書店)

『トマトさん』にも『もじもじ こぶくん』にも出てくるアリ。アリから見た世界は? 虫の名前のところを付箋で隠して、クイズにしても盛り上げられます。



8月 テーマ: どんどんいくよ、ひとりでも

①『どんどん どんどん』

作/片山 健
1,200円(文研出版)

『どんどん』のところは、読み方を少しずつ変えてみて。子どもたちに声を出してもらっても。



②『エンソくん きしゃにのる』

作/スズキコージ
900円(福音館書店)

夏休み、ひとりではじめて田舎に行く子もいるでしょう。読んだあと、夏休みの楽しい計画を子どもたちに話してもらおうのもいいですね。



③『スモン スモン』

文・絵/ソーニャ・ダノウスキ 訳/新本史音
1,800円(岩波書店)

スモンスモンも冒険に出かけます。名前がすべてオノマトペでつけられています。繰り返しリズムを意識して読んでみてください。



9月 テーマ: ぎゅう ぎゅう ぎゅうにゅう

①『よしおくんが ぎゅうにゅうを
こぼしてしまった おはなし』作・絵/及川賢治、竹内蘭子
1,500円(岩崎書店)

給食に出る牛乳。苦手な子も多いですね。こんな牛乳なら、楽しい気分になれるかな。



②『うし』

詩/内田麟太郎 絵/高島 純
1,300円(アリス館)

牛乳といえは……。



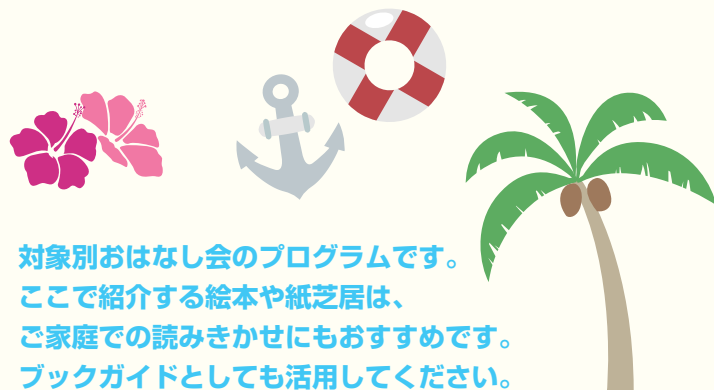
③『まよなかのだいどころ』

作/モーリス・センダック 訳/じんぐうてるお
1,400円(富士房)

毎朝、おいしいケーキが食べられるわけは? 仕上げはミルク!



(石井澄子)

対象別おはなし会のプログラムです。
ここで紹介する絵本や紙芝居は、
ご家庭での読みきかせにもおすすめです。
ブックガイドとしても活用してください。

行事絵本・季節の絵本

父の日

『うちのパパって カッコいい』

作/アンソニー・ブラウン
訳/久山太市 1,300円(評論社)

パパはね、ゴリラくらい強くて、カバくんみたいに楽しい。踊りもうまいし、歌う声だってピカイチさ。それだけじゃないよ……。ばくのパパ自慢は続きます。



平和

『せかいいいち うつくしい ぼくの村』

作/小林 豊
1,200円(ポプラ社)

ヤモ少年が暮らすのは、アフガニスタンの美しい村、バグマン。村人みんなで収穫したものを売りに、今日はじめて、父親と市場へ出かけます。ロバのポンパーも一緒です。



紙芝居

『おばけちゃん とこここ』

脚本・絵/長野ヒデ子
1,400円(童心社)

おばけちゃんが、ふわふわ、とこここしていたら、笠が飛んできました。似合うかしら? 笠をかぶってふわふわ行くと、今度はゲタがありました。おばけちゃんは、どこへ行く?



紙芝居

『かっぱばし』

脚本/中松まるは
画/夏目尚吾 1,900円(童心社)

洪水で橋が流されてしまった村人たちは、新しい橋を架けることを願い出ますが、役人は決まりを盾に認めません。決まりを守るのが人の道。では、カッパなら……?



紙芝居

『かりゆしの海』

脚本・画/まづいのりこ
写真/横井謙典 1,400円(童心社)

『かりゆし』とは、沖縄の言葉で「めでたいこと、えんぎのよいこと」という意味。四方を海に囲まれ、その恩恵と自然の厳しさを乗り越えて生活する沖縄の人たちの、海への思いがこもっています。



(安富ゆかり)